

日本の水田畦畔管理について (3) 草取り, 草むしり, 草刈り, 草薙ぎ

アベンティス クロップサイエンス シオノギ株式会社 徐 錫元

水稲栽培における大部分の農作業が省力化されてき今日、あぜ塗りや畦畔除草などの畦畔管理作業は、全国的にみるといずれも手作業の重労働であり^{1,3,5,6,8)}、特に畦畔除草は一部の地域を除いて依然として草刈りが主である^{3,4,5,6,8)}。現在、畦畔の草刈りは主として刈り払い機を用いて行なわれているが、稲作が近代化される以前の畦畔の草刈りは、鎌や素手で行なわれていた。また、今日では余り見られない光景であるが、畦畔の周囲には、大豆などのあぜ豆が植えられている場合も多かった。従来、筆者は畦畔雑草の鎌や刈り払い機を用いた除草を「刈る」と言う言葉を用い、草を刈る事を単に「草刈り」と表現してきた。この表現法は全国的な視野から見ても、現在の一般的な表現法と考えられる。しかし、筆者が各地における水田畦畔管理についての調査を通じて、地域によっては、畦畔の各部位に特有な呼び方があり、また、各部位の鎌や刈り払い機を用いた除草を「刈る」ではなく、「取る」、「薙ぐ」、「むしる」などの言葉を用いて表現していること、さらに畦畔やその周辺部の除草に関しても地域特有な言葉が存在することが判った。本報では、実際に鎌や刈り払い機を用いた水田畦畔およびその周辺部の除草が、どのような言葉で表現されているのかについて数ヶ所の地域の実例を紹介する。併せて、言葉からみた畦畔除草の仕方についても考えて

みる。

1. 新潟市助郷屋

低地に位置するこの地域の畦畔は後ろあぜが15cm程度の高さの畦畔であり^{6,8)}、一般的に畦畔は「あぜ」と呼ばれている⁶⁾。しかし、古老からの話によると、今日ではその区別が明確ではないが、稲作が近代化される以前、平坦面を「あぜ」・「あぜ道」と呼び、前あぜや後ろあぜの部分で「くろ」と呼んでいた。この場合、田植え後、本田の手取り除草を行なった際、同時にくろの除草も行なわれ、くろの草刈りを「くろ刈り」と呼んでいたと言う。現在では、この地帯の畦畔除草体系は年2～3回の除草剤散布によっており^{4,6,8)}、当時を知る人も少なくなってきた。

2. 新潟県高柳町門出

(1) 草刈り場

中山間地に位置する新潟県刈羽郡高柳町門出(写真-1)では、以前、牛馬の飼料とするために、多くの農家では山などに「草刈り場」を持っていた。刈り取った草は、まず「つなぎ」(写真-2)と呼ばれる藁ひもで束ね、それらを藁で編んだ「ばったり(ばんどり)」と荷縄(写真-3)を用いて背負いで持ち帰り、牛馬の飼料としていた。このような場合に、草を「刈



写真-1 新潟県高柳町門出における収穫後の水田風景



写真-2 新潟県高柳町門出の「つなぎ」

注) つなぎ：刈り取った草を束ねる藁を結んだひも
る」という言葉が用いられていた。「つなぎ」
でしぼる程度であることから、草刈り時の草高
は比較的高かった。

(2) 水田畦畔

水田畦畔の雑草の草刈りについては、「刈る」
という言葉は用いられていない^{6,7)}。当地の水田
畦畔は、前あぜ、平坦面、後ろあぜの上部（前
あぜとほぼ同じ高さまで）を「あぜ」、そして、

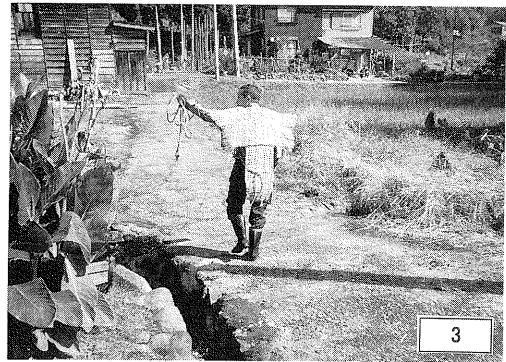


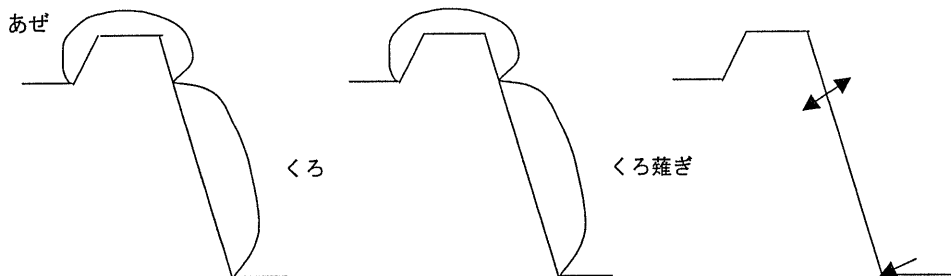
写真-3 新潟県高柳町門出の「ぱっとり」（背）と
「荷縄」（左手）
注) ぱっとり：束ねた草を背負う時の道具

それより下の後ろあぜの大部分を「くろ」と呼
んでいる（図-1）^{6,7)}。「くろ」の草に対して
は「薙（な）ぐ」と言う言葉が用いられ、草を
薙ぐことを「草薙ぎ」、また、くろを薙ぐこと
を「くろ薙ぎ」という。これは、草刈り機が導
入される以前、鎌を用いて畦畔除草を行なっ
ていた時代、数mに及ぶ高い畦畔では、下から手
を伸ばして草を薙ぎたおすことからきているも
のと考えられる。刈り払い機を使う今日でも、
当地では「くろ薙ぎ」、「くろ薙ぎをする」、「く
ろ薙ぎをした」という言葉がくろの草刈りを表
す言葉として用いられている。

次に、「あぜ」の草に対しては「取る」とい
う言葉を用い、あぜの草取りを「あぜ草取り」
と表現している。これは、以前、畦畔は農家の
自家消費用の味噌・醤油の原料となる大豆など
を栽培する一種の畑の役割を担っていたことと
関連があると思われる。地元の農家によると、
当地では昭和45年頃までほとんどの畦畔に大豆
が栽培されていたという。大豆の播種は水稻移
植後に行なわれ、その後の除草はそのあぜ豆を
傷つけないように、注意深く草取り鎌（小鎌）
を用いて行なわれていた。このことからあぜの
除草が「刈る」ではなく「取る」と表現されて

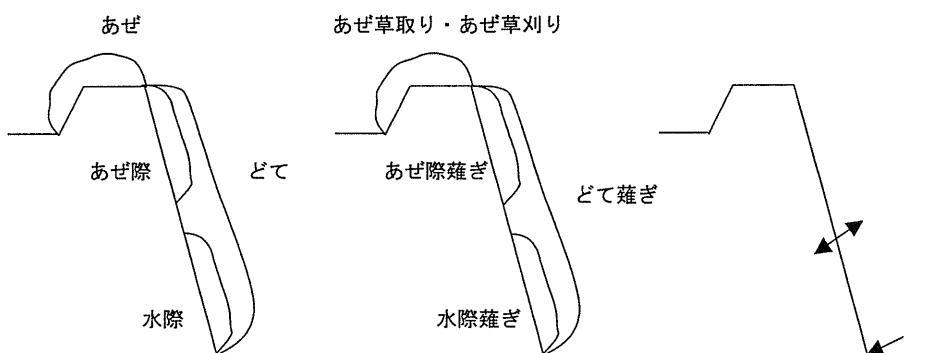
(A) 新潟県高柳町門出

あぜ草取り・あぜ薙ぎ



(B) 新潟県能生町平

あぜ草取り・あぜ草刈り



(C) 千葉県鴨川市大山千枚田

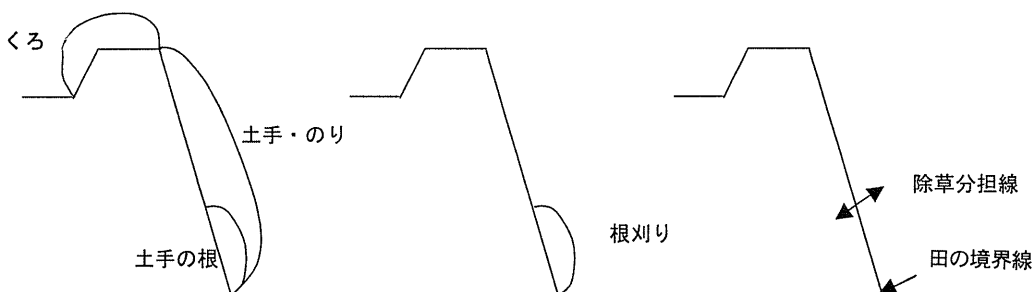


図-1 各地の中山間地における畦畔各部位の名称, 草刈りを表す言葉, 除草の責任範囲

左: 畦畔各部位の名称

中: 草刈りを表現する言葉

右: 田の境界線と除草責任分担

←より上は上の田の所有者が除草し, それより下は下の田の所有者が除草する。

きたものと考えられる。畦畔に大豆がほとんど栽培されておらず, また, 草刈りが刈り払い機を用いて行なわれている今日でも, 「あぜ草取り」と言う。また, これを「あぜ薙ぎ」と表現

する農家も見られる。くろ薙ぎ, あぜ薙ぎという言葉は隣町の松代町などでも今も使われている。

当地における上の田と下の田の境界線は, あ

ぜ尻にあり、畦畔は上の田に属する。しかし、畦畔の草薙ぎについては、上の田の所有者と下の田の所有者の双方によって行なわれている。すなわち、上の田の所有者はあぜより少し下まで草薙ぎを行い、それより下のくろの大部分は下の田の所有者が草薙ぎを行なう。これは上の田のくろの雑草が大きくなれば、下の田の水稲はそれによる日陰・通風不良などによって様々な害を受けるためである。このため下の田の耕作者がくろの下から1m～2m位上まで手を伸ばして草を薙ぐのである。上の田のくろの下部を自由に草薙ぎできることは、下の田の者にとっての権利とも言える。

以前、水田畦畔の草薙ぎは、一般的に草刈り場での草刈りよりも草高が低い時に行なわれ、薙いだ草は集められ堆肥にし、翌春田にすき込んでいた。ただ草刈り場を持たない農家では、畦畔の雑草は伸ばし、刈り取り後家畜の飼料としていた。

(3) そよ

中山間地の水田によっては、自分の田と隣の田・農道との間に水路を置くための小型の畦畔を設ける場合がある^{6,7)}。当地ではその畦畔を「そよ」(写真-4)と呼んでいる。「そよ」は、隣接の田や農道からの冷水が自分の田に浸透し



写真-4 新潟県高柳町門出の「そよ」

注) そよ：写真中央の小あぜ

てくることを防ぐ働きや、水稲登熟末期の水が不要な時に隣接の田や農道からの浸透水が自分の田に浸透してくることを阻止する働きがある。

「そよ」は、素手や鍬で作られる。「そよ」の草刈りについても、「刈る」という言葉は用いず、「取る」・「薙ぐ」という言葉を用いている。

(4) 堰(せき)

雪解け後の早春に、冬の間堰の中に溜った土砂を鍬などで取り除く作業を「堰あげ」と言う。その後7月中旬に堰の中や周囲の草刈りを行なうが、これを「堰薙ぎ」と言う。この作業を行う理由は、堰の水の流れを良くすること、水温を高めることにある。地元では、また、「堰薙ぎ」を「モグラ払い」と言う農家もいる。水田畦畔や用水路付近では、雑草が枯死すると根の周囲にミミズなどが発生し、またそのミミズを狙ってモグラが畦畔や用水路に穴を掘り堰を崩壊させる場合がある。堰薙ぎを行なうことにより、これを防止する働きがあることから、堰薙ぎを別名「モグラ払い」とも言う。

3. 新潟県能生町平

中山間地に位置する当地の水田畔畔では、畔畔の部位によってその呼び方は異なり、前あぜと平坦部を「あぜ」、後ろあぜを「どて」と呼ぶ(図-1)。「どて」は、上から下に向かって人の手の届く範囲^{注1)}を「あぜ際」、逆にあぜ尻から上に手を伸ばして人の手の届く範囲^{注1)}を「水際」と呼ぶ(図-1)。「あぜ」の部分の除草は以前鎌を用いて行なわれ「あぜ草取り」と呼ばれていたが、機械刈りが行なわれている今

注1) 当地では、手の届く範囲を「ひとはかち」と言う。

注2) 「くろ」が畦畔を意味する言葉ではなく、物や場所の隅・へり・端という意味で使われている地域としては静岡市、滋賀県彦根市、岐阜県恵那市などが挙げられる。

日では「あぜ草刈り」と呼ばれている。これに対して、「どて」、「あぜ際」、「水際」の草刈りについては、以前と同様に「どて薙ぎ」、「あぜ際薙ぎ」、「水際薙ぎ」と呼ばれている。

畦畔の除草は、水際を下の田の所有者が行うが、それより上の部分はその所有者である上の田の者が行なう。

当地には「くろ」という言葉があるが、これは畦畔を意味する言葉ではなく、隅・へり・端という意味の一種の方言である^{注1)}。また、当地には「くろ刈り」と言う言葉があるが、これは本田の稲刈りをコンバイン等機械で行なう際、コンバイン等機械の入りにくい畦畔沿いの周囲1筋の稲を前もって刈り取ることを指す言葉である。

4. 千葉県鴨川市大山千枚田

中山間地の当地では、畦畔の「前あぜ」と「平坦面」を「くろ」、人によっては「前あぜ」を「くろ」、平坦面を「くろばた」と呼ぶ(図-1)。また、「後ろあぜ」は「どて」・「のり」と言う。当地では、畦畔の部位に関わらず草を刈ることを草刈りと言う。特に、土手の下半分程

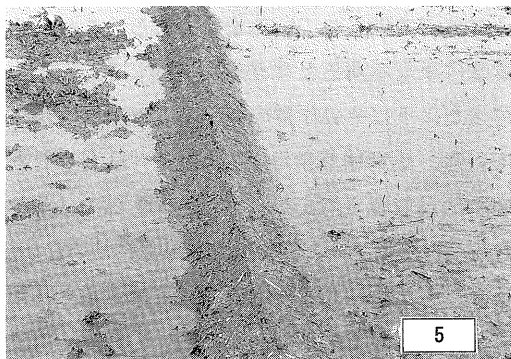


写真-5 福井市大土呂における「あぜ」

注1) 三角あぜ。除草は、あぜをまたいだり、横向きになって行われる。

注2) あぜの幅は部落によって異なるが7寸または8寸である。高さには規定はない。

注3) あぜでの鎌を用いた除草を「あぜ草取り」と言う。

度を「土手の根」と言い、その草刈りを「根刈り」という。この根刈りは下の田の者が行なう。

なお、当地には「田の草取り」という言葉があるが、これは除草剤が普及する以前、湛水状態の本田の中に入り手で雑草を取ることを指している。

5. 福井市大土呂

福井市大土呂付近の水田畦畔は主として「三角あぜ」(写真-5)である^{注1)}。今日ではこの地帯の畦畔除草は、除草剤散布で行なわれている。しかし、除草剤が使われる以前の鎌を用いた畦畔除草は、「あぜ草取り」と言われていた。これは、鎌を用いてあぜの雑草を根こそぎ取り除いていたからである。根こそぎ取り除く理由は、雑草を刈った場合の再生防止である。三角あぜの幅は部落によって7寸(21cm)ないし8寸(24cm)と決められ、高さは一定の決まりはないが10cm前後と小さく、また歩行不可能であるため、あぜ草取りはあぜをまたいだり、横向きになって行なわれていた。取った雑草は再生防止のために田の地中深くに埋め込まれた。このあぜ草取りは年に2～3回、そのあぜの所有者によって全て行なわれていた。根こそぎ草を取るためにあぜは崩れるが、これは翌春また新たにあぜ塗りされ元に戻される。今日では、除草剤散布による除草が広く普及し、除草作業が大幅に楽になった。

6. 岐阜県恵那市中野方町坂折

棚田であるこの地域の畦畔は、石づみで、角度は垂直に近い(写真-6)。畦畔は部位によって呼称が異なり、畦畔の平坦部を「あぜ」、そして後ろあぜの石づみの部分を「ばた」と呼ぶ。ばたにおける以前の鎌を用いた除草も、ま

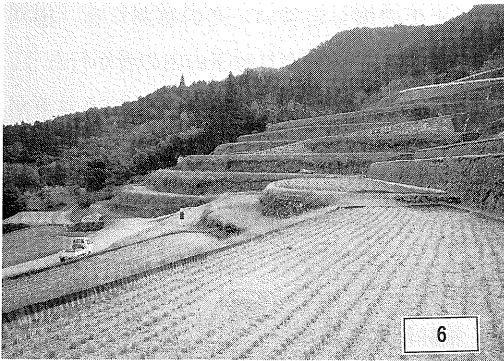


写真-6 岐阜県恵那市中野方町坂折の石づみ畦畔

注1) 平坦面は「あぜ」、石づみの後ろあぜは「ぼた」と呼ぶ。

注2) 後ろあぜが石づみと土壌の部分からなっている場合、土壌の部分は「どは」と呼ぶ。

注3) 「ぼた」の上部はその所有者によって、また下部は下の田の所有者によって除草が行なわれている。

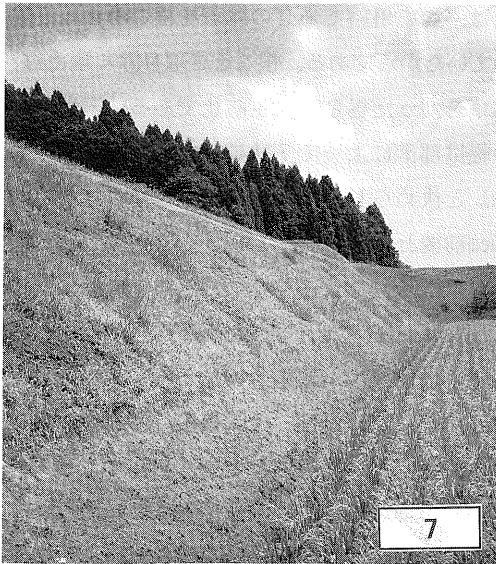


写真-7 富山県八尾町乗峰

注) 後ろあぜ⁶⁾は、「はば」と呼ばれ、「はば」の下部の草刈りは下の田の所有者によって行なわれる。

た、今日のような刈り払い機を用いた除草も、草を刈ると表現し、ぼたの草刈りを「ぼた刈り」・「ぼた草刈り」と呼んでいる。なお、後ろあぜが全面的ないしは部分的に土でできている場合には、土の部分を「どは」と呼んでいる。

この地域の畦畔の境界線はあぜ尻である。「ぼた」の除草は、上部を上田の所有者が、

また下部を下田の所有者が行なっている。

7. 富山県砺波市鷹栖・小矢部市石王丸

この地帯の農家の話によると、以前の鎌を用いた畦畔除草を「むしる」・「取る」という言葉を用いて表現されていた。これも、雑草を根こそぎ取り除くことからきている。しかし、今日の草刈り除草は刈り払い機で行なわれるため「刈る」と表現されている。

8. 富山県八尾町乗峰

棚田であるこの地域の畦畔も、部位によって呼称が異なり、畦畔の前あぜ・平坦面を「あぜ」、そして後ろあぜ部分を「はば」と呼ぶ。以前の鎌を用いた除草も、また、今日のような刈り払い機を用いた除草も「草刈り」と呼び、はばの草刈りを「はば刈り」と言う。(写真-7)

9. 結び

全国各地における鎌や草刈り機による畦畔除草は、現在、一般的には刈るという言葉で表現されている。しかし、地域によっては「刈る」のみならず、「むしる」、「取る」、「薙ぐ」という言葉で表現されている場合がある。これらの意味は単なる刈るという意味ではなく、上述してきたようにその作業の様子が各々若干異なっている。改定雑草学用語集²⁾には「草刈り」という語は収録されているが、「草取り」、「草むしり」、「草薙ぎ」という語は収録されていない。言葉は文化そのものであり、言葉の意味も時代によって異なる場合もある。稲作の発達・普及と共に各地にいろいろな稲作に関する固有の言葉が生まれてきた。しかし、稲作の衰退によっては、これらの美しい言葉も失われる危険性も高く、実際にその危険にさらされている。地域

特有な言葉は古老の間では使用されているが、若者の間では余り知られていない場合も多い⁷⁾。水田畦畔やその周辺部の除草に関する各地の固有な言葉や慣習が、どのような意味を持つかを理解することは、先人達の除草に関する考え方を知る上で興味深い。

本報告をとりまとめるにあたり、種々ご教示頂いた新潟県高柳町村田重則氏・能生町矢澤利正氏をはじめ多くの方々に対して心からお礼申し上げます。

引用文献

1. 松原寿子 1996. 畦畔管理時間の軽減と作業モデル. 雑草とその防除 33: 65~67
2. 日本雑草学会 1991. 改訂・雑草学用語集 3~234.
3. 徐 錫元, 高橋 聡, 藤原雅美, 植田靖彦, 竹重誠一 1996. 東日本各地における水田畦

畔雑草防除の実態. 植調30(12): 438~442.

4. 徐 錫元 1996. 新潟県における水田畦畔・農道の雑草防除の実態. 雑草研究41(別): 112~113.
5. 徐 錫元 2000. 近畿・中国・四国地方における水田畦畔雑草防除の実態. 日本植物調節剤研究協会近畿中国四国支部年次報告平成11年: 23~30.
6. 徐 錫元 2000. 新潟県の水稲農家に学ぶ畦畔雑草防除. 関東雑草研究会報11(部分訂正稿): 15~24.
7. 徐 錫元 2001. 日本の水田畦畔管理について. (1) 畦畔の形と役割. 植調35(7): 238~246.
8. 徐 錫元 2001. 日本の水田畦畔管理について. (2) 雑草防除と地域間差異. 植調35(8): 278~287.

省力タイプの高性能一発処理除草剤シリーズ

問題雑草を一掃!!

少量拡散型 水稲用一発処理除草剤

ダンシングパワー

500グラム粒剤

ダンシングパワー-A500グラム粒剤 ダンシングパワー-L500グラム粒剤

容器を振らずに
歩くだけ!!

水稲用初・中期一発除草剤

ダイナマン

フロアブル

ダイナマン・フロアブル ダイナマンLフロアブル

ダイナマンに
お任せ!!

投げ込み用 水稲用一発処理除草剤

マサカリ

ジャンボ

マサカリAジャンボ マサカリLジャンボ

投げ込むだけ!!

クサストップ協議会 デュボン株式会社 三菱化学株式会社
事務局 日本農薬株式会社

お問い合わせ先



日本農薬株式会社
東京都中央区日本橋1丁目2番5号

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。●空容器は畑場に放置せず、環境に影響のないように適切に処理してください。